

雑感

教育はまちづくり

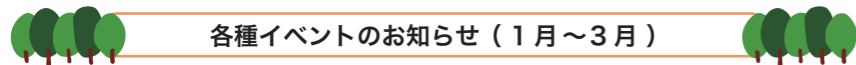
こどもの森に来て約1年が経ちました。こどもの森で感じたことを書きたいと思

います。来てからすぐの頃のある昼休み、低学年の子に「公園で遊ぼう！」と誘われ

ました。そのとき、自分はあんまり外で遊びたい気分ではなかったのですが、せ

に気付かされたからです。こどもの森には、「自分を大切に、人を大切にす

る」ってことが空気のようにあって、「私はこう思うけど、あなたは思う？」



各種イベントのお知らせ(1月~3月)

こそだての森

■子育てカフェ「こどもの森のハッピーアドバイス」

「自己肯定感」をいろんな角度から考え、ワークをします。

第1回 1/16(水)「苦手な人とのつきあい方」

第2回 2/13(水)「ひといちばい敏感なあなたへ～HSP,HSC,HSS～」

第3回 3/13(水)「幸せな人生の見つけ方」

【時間】10:00～12:00

【参加費】2,000円 *3回まとめて申し込むと6,000円→5,000円に!

【講師】坂本田鶴子、守安あゆみ(認定子育てハッピーアドバイザー)

【定員】20名

■もりラボ企画「コミュニケーション講座」

聴き方、伝え方、平和的な対立の解き方について学ぶ連続講座です。

第1回 2/2(土) 第2回 3/2(土)

【時間】13:00～17:00

【参加費】10,000円

【講師】守安あゆみ(日本メンタルファウンデーション協会認定コーチ)

【定員】6名

おとなの森

■教育カフェマラソン

2ヶ月に1回、さまざまな分野の方を話題提供者にお招きし、教育について語り合っています。学校教育だけにとらわれず、子育てや地域・まちづくりなど、幅広い視点で考えたいと思います。最新情報はHPをご覧ください。



発行日:2019年1月15日
発行所:認定NPO法人 箕面こどもの森学園
〒562-0032
大阪府箕面市小野原西 6-15-31
tel&fax 072-735-7676
e-mail info@kodomonono-mori.com
URL http://kodomonono-mori.com



テーマ学習
～食べ物の旅～

低学年は、食卓にあがる食べものがどこから来るのかスーパーへ産地調べに行きました。国内だけでなく地球の裏側からも来ることに驚きました。よつば農産やカップ

ヌードルミュージアム、舞洲みみ処理場へ行き、食べものの流れを学習しました。その後「食べ物の旅」のジオラマづくりと調理のグループに分かれて発表しました。そして地球にも体にもいい食べもの

のポイントを書き冊子を作りました。高学年は、まずどのように食べものを「買い」「食べ」「捨て」ているのかを考えました。関西よつば連絡会の方のお話を聞いて、農家の現状を知り、生産・消費・流通がともに喜び合える関係を考えました。



フィリピン研修旅行

11月上旬、中学部ではフィリピンのセブ島とネグロス島へ10泊11日の旅に出かけました。

こどもの森では、海外の旅行でも子どもたちが多くの役割を担います。宿泊先の予約、食事場所や交通手段・観光先を決める

こと、旅費の管理など、事前に情報を調べ現地案内役をして、旅を作っていました。困った時や意見が分かれた時も、話し合いながら問題を解決していきました。

セブ島では歴史遺産の見学やアウトドアなど観光を、ネグロス島では現地のユースボランティアと一緒に活動しました。学校での交流、ホームステイ、日本文化の紹介や日本食作り。山でキャンプをして、海で泳ぎ、泥んこになりながらのマングローブでの植林。日本と異なる生活や文化にふれ、海外の同世代とともに過ごすなかで、言葉が通じないもどかしさも、言葉が通じなくても共有できる時間や気持ちがたくさんあることも知りました。

11日間、楽しいことも大変なことも、多くの経験をみんなで重ねた旅になりました。(高原)



お泊まり会

毎年ゼロからの話し合いで作りに上げていく低学年のお泊まり会。

今回もお泊まり会実行委員として3年生が話をリードし、行き先や過ごし方について決めていきました。

多数決を取らない決め方は民主的ではあるものの、時間がかかります。なかなか決まらず、みんなの中にも焦りや苛立ちが出てきましたが、この過程を大切にしたいと、スタッフは見守ってきました。そうして無事に迎えられたお泊まり会では、公園や学校内でひたすら遊び、夜もおしゃべりやおやつ交換をするなど、子どもたちは非日常的な学校生活を楽しんでいました。

こんな風に、とことん話し合う中で一人ひとりの意見が大切にされる経験を積み重ねて、子どもたちが平和的に物事を決定していく人たちになってほしいと願っています。(福田)



修学旅行

～神戸・USJの旅～

4月から6年生を中心に準備を進めてきた高学年クラスの修学旅行。これまでの1泊2日が、今回は念願の2泊3日の旅になりました。

2泊にすることは簡単に決まったわけではありません。何度も話し合いをして、1学期には夏祭り、2学期は秋祭りという新しいイベントを催したり、口ハス in こどもの森、多民族フェスティバルなどに参加して資金を集めてきました。箕面キューズモールでのフリーマーケットでは、たくさん

の寄付も頂きました。今回の目的地は、神戸とUSJ。ポートタワーにのぼったり、南京町でみんなで夕食をとったり、USJでは丸一日をすごしました。たくさん歩いて、ノンストップで駆け抜けた3日間でした。(藤丸)



【小学部】

自由作文

そら (小1)

つるみのトイザラスにパイブレードたいかいをやりにいって、たのしかったけど、まけていややった。あいては、ほぼむげんにまわるパイブレードだったからまけた。

かなと (小1)

11月28日のあさ、でんしゃでがっこうにむかっていたら、ほかのひとがでんしゃのまどガラスのそとをみていて、なんだろう？とおもってみたら、けむりがいっぱいいていたから、びっくりした。

プロジェクト紹介

くまもん(羊毛フェルト)メロディ(小4)

くまもんが好きだったので、作りました。まずは、ウール用ニードル、白と黒と紫とピンクの羊毛を準備します。最初に、くまもんの黒い耳を作って、耳の上に白をのせます。そして、顔をつくります。そこに、うでとからだにあしとりボンをつけます。むずかしかったのは、目をつくるのですが、からだを作ったのが、楽しかったです。もう少しやったらよかったことは、目をもうちょっときれいに作ったらよかったです。次は、くまもんの服を作りたいです。



つくえ(木工) きき(小2)

木工がしてみたかったので、つくえを作りました。まず、いたの横に2枚、ネジでとめます。つぎに後ろにクギで板をとめます。さいごに、うらに長方形の木をはって、かんせいです。むずかしかったところは、クギをうつところ。楽しかったところは、ネジをまわすところ。もうすこしこうしたらよかったことは、もっとピッタリな木をさがしたらよかったです。

【中学部】

中学生のミニ講座

中学部では毎日お昼前に20分間のミニ講座の時間があります。スタッフが提供する英語や数学、漢字や読書に加え、中学生がつくるミニ講座が開かれています。学期に一度、一人ひとりが担当するこの時間、テーマは自由です。自分の好きなことやその時のできごと、日常で生まれたふとした疑問など、一人ひとりの視点や言葉で伝えます。関心のあることに目をむけ、それをどのように伝えるか工夫することを通して、自分を見つめ表現することにチャレンジしてみる時間。聞いている人も、その人の知らなかった一面に気づいたり、テーマについて新しい発見があったりと、そんな時間を楽しんでいます。

ミニ講座の内容の一部をご紹介します。

『コマ撮りの作り方』

レゴのコマ撮りでした動画の作成経験をもとに、苦労したことや撮影の工夫とポイント。

『江戸の冬アイテム』 江戸時代の暮らしが好きなことから、その時の気候や冬の過ごし方・現代との違い。
『日焼け』 釣りに出かけた時にひどい日焼けで大変だった経験から、日焼けのメカニズムや対策。
『〇〇と〇〇のちがいがい』 よく考えると違いがわかりにくい言葉調べ。居眠りとうたた寝・卵と玉子は？

<他にもこんなミニ講座があります>
好きな音楽・バスケットボール・面白い名前の魚・広告写真に使われているトリック・キャラクターロジー心理学・数秘術・お誕生日占い・おすすめの文房具・おすすめの勉強法とアプリ・私のおすすめ本と作者・おすすめ漫画・ジブリクイズ・考えさせられる絵・絵の描き方などです。

認定NPO法人箕面こどもの森学園の事業活動 9月~12月

「世界を感じる口ハス」
— 新しい試みを実施 —

2018年10月27日に「第14回口ハス in こどもの森」が開催されました。今回のテーマは「世界を感じる口ハス」。出店者の方には出店内容にちなんだ国を選んでいただき、子どもたちと出店者の方々の交流を目的に各国クイズを用意し、スタンプラリーを行いました。これによって、子どもたちも楽しく各国を学び、出店者の方々も、子どもたちと笑顔で交流されていました。

今回のライブショーでは、箕面出身のシンガーソングライターの「北川たつやさん」箕面こどもの森学園の卒業生「北出むぎとさんの海外旅行の話」、「ダルシマーの演奏」など、多彩な内容でした。また、今回は新たな試みとして、ライブの様子を各会場でも見れるように、ライブビューイングも実施しました。15周年記念らしい様々なチャレンジと共に、ほっこりできる1日を過ごすことができました。

毎年新しいことにチャレンジし、進化していくことを楽しめる仲間と場があることを改めて実感しました。来年の口ハスでは、どんなチャレンジができるか楽しみです。(井上)



トヨノドリーム

2018年4月に豊能町の新たな魅力を創造するプロジェクト「トヨノドリーム」が始動し、図書館活用による地域活性化枠において、箕面こどもの森学園の企画が採択され、イベントを行うことになりました。

10月に開いた第1回目は、「ぐりとぐらのえんそく〜リュックとぼうしを作っ

てさあでかけよう〜」。豊能、箕面、吹田や川西からの8組の親子にご参加いただき、ぐりとぐらの絵本の世界を楽しみました。「どっぷり工作するのは学生の時以来かも!」「この色のポケットがいい!」と親子の会話が弾みます。ぼうしをかぶり、リュックを背負ったねずみたちは、秋晴れの下、公園で木の実を探したり、消防署へ出かけポンプ車を見学させてもらったりしました。

第2回目は3月に、「子育てハッピーアドバイス」。自己肯定感を育むことの大切さを、子育てハッピーアドバイザーがお伝えします。

自然豊かな豊能町で、地域の人とつながりながら「こどもの森の魅力」を発信できればいいなと思っています。(西川)



ESD 重点校のこれから

文部科学省委託事業でユネスコ・アジア文化センター(ACCU)がコーディネートしてくれた「サステナブルスクール(ESD重点校)事業」が3年間のプログラムを終えました。

箕面こどもの森学園は、全国公募で24校の中に選ばれ、世界中で実施された気候変動プログラムにも参加。

その他様々な研修会や交流に参加し、実りある活動ができました。ただ3年間という期間は重点校からその他のユネスコスクールへのインパクトを生み出すには短すぎるものでした。

今後はこの予算がつかない可能性があ

りますが、すでに私たちを含むいくつかの重点校が自主的に活動を開始しようとしていて、ACCUもサポートしてくれています。本当の役割はこれからです。今後のサステナブルスクールの活動にもご期待ください。(佐野)



学び場コーディネーター
Manabee プログラム
報告会&交流会

半年間のManabeeプログラムの最終回は、自己肯定感、自己決定、対話、ESDという4つの要素を盛り込んだプログラムの実践報告会でした。

今回は、3グループが実際に学園の子どもたちに実施したプログラム「詩を書こう」「幸せについて哲学しよう」「みんなのだいすきであそぼう たからものをみせよう」について報告しました。どのグループも、実際に自分たちが考えたプログラムをやってみることで、いろんな気づきがありました。

その後みんなで軽食を食べながら、今回のプログラムを振り返って感想を話し合いました。「Manabeeプログラムで人生が変わった」「自分が本当はどう生きたいのかを見つめ直すことができた」など、深い言葉が共有される素敵な時間になりました。(藤田)

